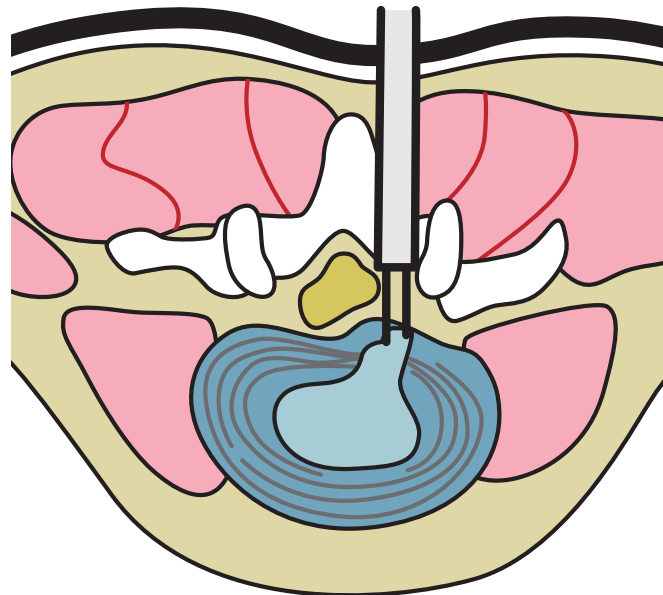


MED (内視鏡下椎間板摘出術)

内視鏡を用いた腰椎椎間板ヘルニアの手術です。1995年にアメリカで開発された手術です。2000年前後より日本にも徐々に導入され現在は多くの施設で行われています。当院では脊椎内視鏡下手術・技術認定医の赴任に伴い開始しました。



入院日数 5～7日

※リハビリ日数も含まれています。※入院日数には個人差があります。

手術の方法

全身麻酔で行います。

約18mm程度の切開で、背骨に付着している筋肉を切離することなく筋肉間を侵入し専用の筒を設置します。筒の中にカメラを挿入しモニターを見ながらヘルニアを摘出します。

この手術の利点

- ・カメラ装置の画質向上に伴い明るくて鮮明な画像を用いて安全に手術が行えます(初期の頃と現在のハイビジョン画像は雲泥の差があります)。
- ・筋肉間を侵入するため出血や術後の疼痛は従来法より少ない。
- ・それゆえに早期の退院、早期社会復帰が望めます。
- ・術後翌日よりリハビリを開始できます。
- ・抜糸は不要です。縫合は皮膚の下で行い、表面はテープを使用します。

この手術の欠点

- ・同部位での再手術例や癒着のある例では困難な場合があります。
- ・靭帯の骨化や骨棘(骨のトゲ)を伴う場合は術式の変更が必要な場合があります。

担当医師：土居 克三 にご相談下さい。

(日本整形外科学会認定脊椎内視鏡下手術・技術認定医)



浜脇整形外科病院
HAMAWAKI ORTHOPAEDIC HOSPITAL

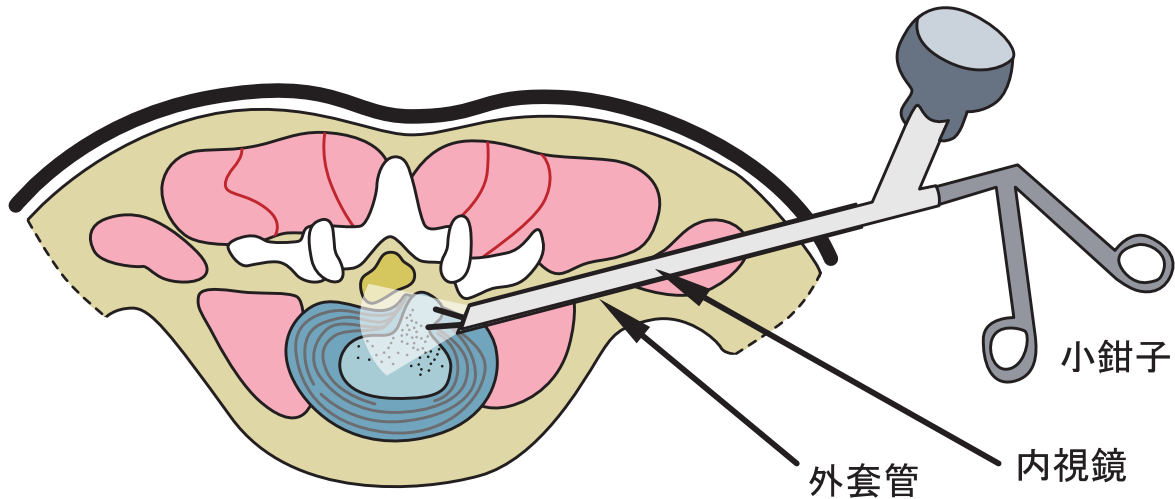
〒730-0051 広島市中区大手町4丁目6-6
TEL: 082-240-1166 FAX: 082-240-1122

PED

(経皮的内視鏡下椎間板摘出術)

より細い筒を用いた内視鏡手術です。
当院では脊椎内視鏡下手術・
技術認定医の赴任に伴い開始しました。

入院日数 3 ~ 7 日 ※入院日数には個人差があります。



適応

- 外側腰椎椎間板ヘルニア
- 腰椎椎間板ヘルニア（上や下にあまり移動していないもの）
- 化膿性脊椎炎（洗浄搔爬により炎症を沈静化させます。）

手術の方法

局所麻酔で行います。10mm ほどの切開です。

1 時間程度で患者さんと会話しながら行います。

局所麻酔を行った後に針を斜め後方から椎間板に入れます。下肢への刺激がなければ 7mm の筒とカメラを椎間板内へ挿入しヘルニアを摘出して行きます。神経を見るのではなく、神経を圧迫しているヘルニアの下をくり抜くような手術です。

この手術の利点

- ・ 傷が小さいので筋肉や軟部組織への影響を最小限にできます。
- ・ 数日で退院できます。（アメリカでは日帰り手術、当院では最低でも 2,3 泊はお願いしています。）
- ・ 小侵襲であるためスポーツや仕事への復帰が早い。
- ・ 外側にあるヘルニアは最も摘出しやすい手術である。

この手術の欠点

- ・ 神経の圧迫解除が不十分な場合がある（細い筒なので自由度が少ないため）。
- ・ 椎間板部位から離れたヘルニアは摘出困難な場合がある。
- ・ 筒やカメラを挿入する経路が狭くて入らないケースもある。
- ・ L5/S と言う一番下の部位では骨盤が邪魔となり施行できない。



MEL (内視鏡下椎弓切除術)

内視鏡を用いた腰部脊柱管狭窄症の手術です。
MEDと同じ装置を用いて行います。
当院では脊椎内視鏡下手術・技術認定医
の赴任に伴い開始しました。

入院日数 5～7日

※リハビリ日数も含まれています。※入院日数には個人差があります。

手術の方法

全身麻酔で行います。約 16mm または 18mm 程度の切開で、背骨に付着している筋肉を切離することなく筋肉間を侵入し専用の筒を設置します。

筒の中にカメラを挿入しモニターを見ながら手術を行います。

椎弓と呼ばれる背骨の後ろにある骨を専用のドリルを用いて切除して行き狭窄している部分を広げ圧迫を取り除きます。

左から侵入しても筒を傾けることにより右側も広げることができる手術です。

この手術の利点

- ・カメラ装置の画質向上に伴い明るくて鮮明な画像を用いて安全に手術が行えます（初期の頃と現在のハイビジョン画像は雲泥の差があります）。
- ・筋肉間を侵入するため出血や術後の疼痛は従来法より少ない。
- ・それゆえに早期の退院、早期社会復帰が望めます。
- ・術後翌日よりリハビリを開始できます。
- ・抜糸は不要です。縫合は皮膚の下で行い、表面はテープを使用します
- ・手術部位の後方の骨や筋肉を痛めず温存できる手術であり、軽度のすべり症の患者さんでも適応できます。

この手術の欠点

- ・同部位での再手術例や癒着のある例では困難な場合があります。
- ・手術手技に時間がかかるため3箇所以上の病変がある場合は非適応。
- ・骨の変形などが著明な例では困難な場合があります。

